

政界の茶番

選挙権を得た豊翔の生徒は投票に行ったのだろうかと気になりながら、参議院選の当日を迎えた。と言うのは、親御さんからの要望があり、18歳を迎えた生徒たちに参議院選を前にして政治と選挙に関する講座を行ったからだ。政治の仕組みもさることながら、なぜ選挙で一票を投じなければならないのかが主要内容で、政治に関心を持ち主体的に政治に参加する姿勢を促したい意向があった。20年前に「百年安心」と言った年金制度は、もはやその体をなしていない。国会で議論される年金制度は、私のような高齢者に影響するのではなく、生徒たちのこれからに関わるという自覚そのものが、貴重な一票の行使に継がることを分かって欲しかった。選挙に行かないという一票への拒否は、現状への批判の意思表示ではなく、現状維持を表明したことに他ならない。生徒の選挙への参加をまだ確認はできていないが、きっと講座の意味はあったものと期待している。

自民党が参議院でも過半数割れに終わった今回の選挙、既に石破おろしが始まっている。自民党大敗は自民党そのものへの厳しい批判であって、石破首相辞任を求めたのではないだろう。鈴木宗男の「裏金問題の責任をとらない連中が石破おろしに走るのはすり替え議論だ」の正論のような発言もあるが、次期首相をもくろむ数名の候補者が自ら名乗り出ることなく状況を見守っているところに、自民党の変わらぬ体質が見える。躍進した野党の石破おろしも本気ではないもようだ。政権交代に積極的に野党共闘しないのは、政策によって与党に寄り添うどうも楽な野党を選択しているようにも見える。故に、国民に寄り添うことがない政局茶番は続く。

茶番と言えば、静岡県伊東市の田久保市長の学歴詐称問題も見苦しい。あまりにもバカバカすぎて市長の言動には呆れるばかりだが、法律事務所の事務局長として数年勤めた私にとって市長の弁護士が気になっている。弁護士バッジにはひまわりの中心部に天秤一台が刻されている。まさに正義の象徴である。彼は市長に何を助言して何を促しているのか。守秘義務があり、金庫に保管されている偽物と言われている卒業証書を公表することはできないだろうが、あの市長の言動を指示的立場から全面的に応援しているとしたら、もはや正義は存在しない。東洋大学卒業生仲間の善意の行動を逆手にとったなら、二人の罪は限りなく重い。

(丹羽
豊)